共同利用・共同研究高度化支援システム JROIS2の特徴

申請/報告書データを研究課題毎に一括管理したい！
→ P4,No.4

申請/報告書の受付確認メールを自動で送信したい！
→ P4,No.6

ROIS内の公募情報をタイムリーに入手したい！
→ P4,No.1,10

申請フォームを自由に変更したい！
→Webフォーム入力と書類添付のハイブリッド運用
(P5,項目2-3)

過去の申請を流用したい！
→マイページ機能(P4,No.2)

事務局

入力項目は少ないほうがいい！
→入力項目の非表示化(P5,項目1-1)

申請者

問い合わせは少ない方がいい!
→現場の指摘を迅速に反映
(P5.項目2-1,2-2)

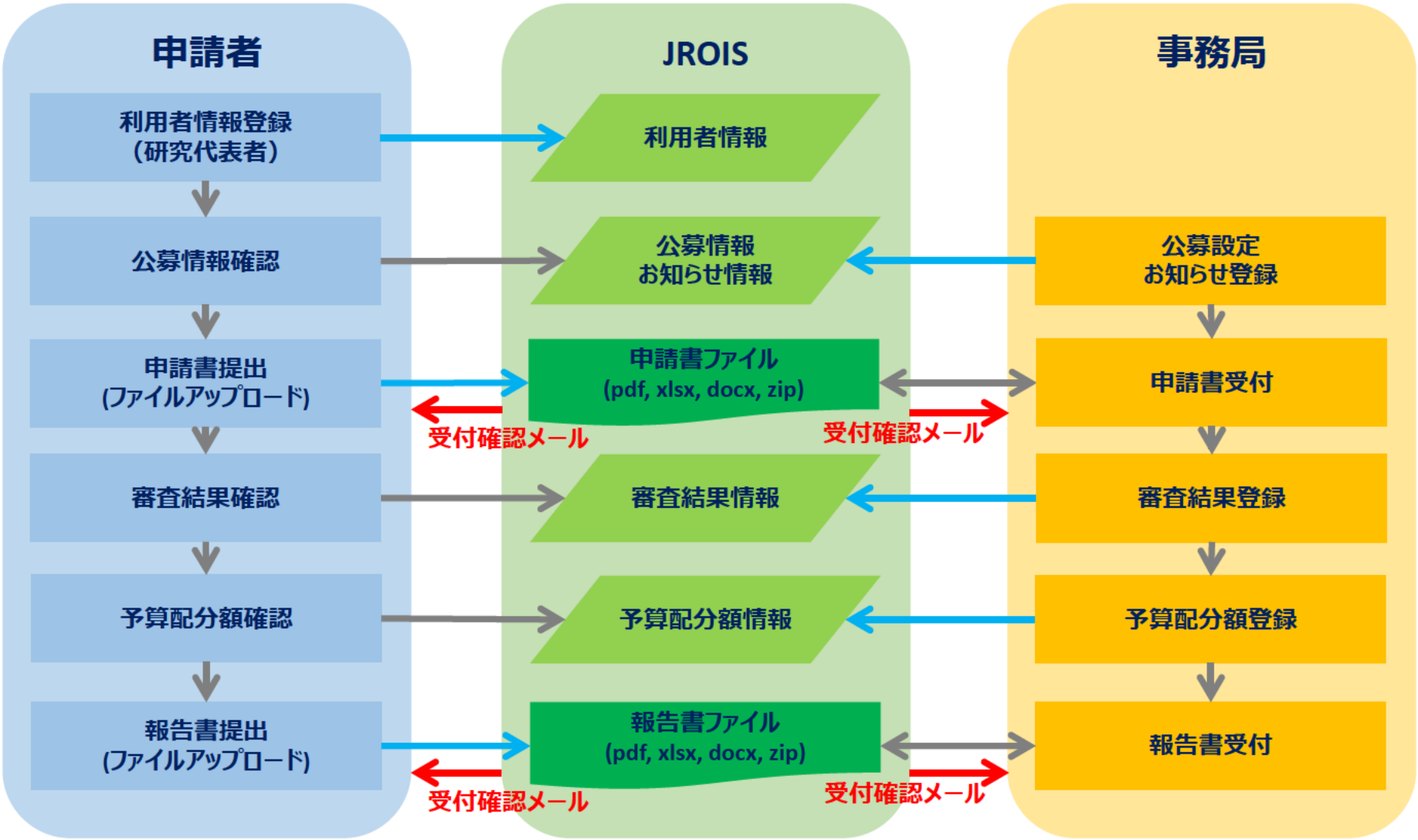
採否/配分額通知を個別ファイルを添付せずメールしたい！
→ P4,No.7

予算執行責任者となっている申請データを確認したい！
→ P4,No.3

共同利用・共同研究高度化支援システム JROIS2 の仕組み

公募型共同利用・共同研究の申請から実施報告までの一連のプロセスにおいて、下記を実現するためのシステム
(1)**研究者による申請作業の利便性向上**、(2)**申請事務・研究支援業務の効率化**
(3)**申請内容から研究成果までの情報集約**

・登録 →
・確認 →



JROIS2の「お知らせ」「公募情報」「申請一覧」画面

○「お知らせ」画面

公募に関するお知らせを掲載

機関	お知らせ
	2023.9.15 【通知】「所内対応者」を「所内受入責任教員」へ改称する改修を行い、マニュアルを改訂しました。
	※研究組織変更・研究者異動の手続きについてはHPをご確認ください。⇒ https://www.ism.ac.jp/kyodo/index_j.html 2023.4～ 2023年度 年度途中の追加申請受付中（共同利用登録・一般研究１のみ）

- 随時、簡単に情報発信
- 所属機関以外の情報入手

○「公募情報」画面

ROISで募集中の公募を確認可能

2024年度　2024 2023 2022 2021 2020 2019

機関別フィルター　申請締切日フィルター　選択してください

申請期限を設定可能
⇒提出期限厳守を実現

報告期限を設定可能
(※無期限設定も可能)

過去の公募を確認可能

機関	公募開始(JST)	公募締切(JST)	報告書締切(JST)	応募	公募種別	テーマ/分野	査読
	2023-12-20 00:00	2024-01-10 23:00	2024-05-31 23:00	応募	一般研究2		不可
	2023-10-01 00:00	2023-11-15 00:00	2024-11-15 00:00	応募	共同研究集会		不可
	2023-07-01 00:00	2023-12-01 00:00	2025-06-20 00:00	応募	戦略研究公募型		不可

- ROIS内の全研究所の公募が一覧表示される
- 所属機関以外の公募情報も目に留まる

○「申請一覧」画面　（「申請書・報告書・事務文書」管理）

申請された課題を一元管理可能

2024 2023 2022 2021 2020 2019

過去の申請を確認可能

Total 13

状況フィルター　選択してください　別フィルター

申請状況を確認可能

クリックして添付ファイルダウンロード
(申請書・報告書・採否通知)

機関	申請ID	公募種別	分野/テーマ	課題名(必須)	申請者	状況	課題番号	申請書	報告書	事務用
戦	20281	戦略的研究プロジェクト				申請書一時保存				
戦	20280	共同研究集会				受付完了				
戦	20279	国際NW形成・MoU推進プロジェクト				採択				
戦	20278	国際共同研究				報告書提出済				

状況ごとに申請者のメールアドレス一覧を出力可能
⇒採択通知などの一斉通知が容易

提出書類を研究課題ごとに管理可能

- 本年度の申請
- 過去の申請
- 予算執行責任者になっている申請

JROIS2を使用するメリット –メール受付やGoogle Form利用との比較-

JROIS2で実現できること

(1)研究者による申請作業の利便性向上 (2)申請事務・研究支援業務の効率化 (3)申請内容から研究成果までの情報集約

No	JROIS2	関連項目	対象	メール受付	Google Form
1	**JROIS2にログインすれば、ROISで募集中の公募を確認可能**	(1)	申請者	ROISの各々の研究所・施設のホームページを確認する必要がある	
2	過去に提出した申請書・報告書内容をシステムで確認可能（**マイページ機能**）	(1)(2)(3)	申請者	過去の提出書類を送信メールから探す必要がある	送信した内容や書類を各自で保存する必要がある
3	予算執行責任者になっている申請内容をシステム上で確認可能	(1)	申請者	複数の申請で予算執行責任者となっている場合、それぞれのデータ確認や管理が難しい	
4	申請書、報告書の**データを研究課題ごとにまとめて管理可能（一元管理可能）**	(2)(3)	事務局	申請書、報告書単位でフォルダで管理するため、研究課題ごとの管理がしにくい	申請用フォームと報告用フォームを別々に作成するため、研究課題ごとの管理がしにくい。
5	申請の状況(申請書/報告書提出、採否、配分額等)をシステムで確認できる（**マイページ機能**）	(1)	申請者	申請の状況を確認するためには、メールで問合せが必要。	
6	申請書/報告書**提出直後に受付確認メールが自動で申請者、予算執行責任者、事務局に送信**	(1)(2)	申請者	申請書や報告書を提出直後に受付確認メールを受信できない	申請書/報告書を提出した直後に受付確認メールが自動で申請者と事務局に送信される。
			事務局	申請書・報告書受付確認メールを個別に送信	
7	採否結果や配分額をシステム上で一括登録後、**添付ファイルなし**で一斉通知メールを送信（メアド作成機能により宛先作成）	(2)	事務局	採否通知や配分額通知を個別のメールにファイルを添付して送信	採否通知や配分額通知の際、個別メールにファイルを添付して送信
8	添付ファイルを一括ダウンロード（申請書、報告書）	(2)	事務局	メールに添付された各書類を個別に保存管理	Google Driveに添付ファイルが保存される
9	提出期限厳守を容易に実現	(2)	事務局	提出期限境界時間の提出分の取扱いに判断を要する	提出期限厳守の実施には技術系サポートが必要
10	お知らせ欄に簡単に随時公募情報を掲載。申請者は所属機関以外の情報も入手可能	(1)(2)	事務局 申請者	ホームページに掲載するために広報担当等への手続きが必要。申請者は所属機関以外の情報は各ホームページを確認する。	

2022年度JROIS2の導入　-旧JROISからの改善-

1.申請者向け

1-1 基本情報の入力と添付ファイルアップロード方式になり、申請書/報告書作成時にWeb上で多くの内容を直接入力する必要がなくなった(入力項目削減)。
⇒ **申請書や報告書の作成負担軽減**

1-2 研究代表者の登録情報入力項目の削減により、アカウント登録の負担が軽減した。
⇒ **申請手続きに係る時間短縮**

1-3 共同研究者の登録と参加承諾が不要になり、研究代表者が対応しなくてよくなった。
⇒ **申請手続きに係る時間短縮**

2.事務局向け

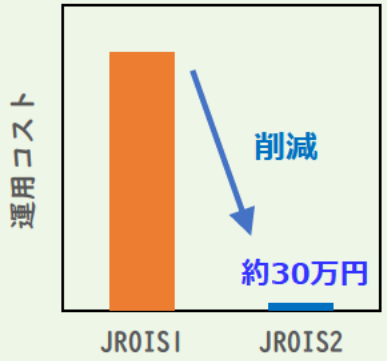
2-1 共同研究者の登録、参加承諾不要になったため、これに関して多数発生していた問合せが激減した。
⇒ **問合せ対応業務軽減**

2-2 添付ファイルアップロード方式になったため、Webで直接入力途中にデータが消失することがなくなり、データの復活に関する問合せがなくなった。
⇒ **問合せ対応業務軽減**

2-3 添付ファイルアップロード方式により、入力項目が各機関、各公募ごとに自由に設定できるようになった。
入力フォームのレイアウトや日本語・英語版の作成が簡単になった。Webで直接入力が原因で発生していた文字コード起因の文字化け問題が解消した。
⇒ **公募準備に係る時間短縮、業務負担軽減**

3.システム

3-1 システム内製化によりJROIS2の年間運用コストは約30万円まで削減された。
※レンタルサーバー2台(実機、テスト機)分
⇒ **運用コスト削減**

3-2 システム内製化により改修が容易になり、仕様の共通化により改修工数が削減された。
⇒ **システムメンテナンス性向上**

3-3 システム内製化により、システムで使用しているプログラミング言語(PHP)の改版に対する追随が容易になった。
⇒ **セキュリティーの担保**